

ABC検診のご案内

「ヘリコバクター・ピロリ菌感染の有無を調べる検査」と「胃炎の有無を調べる検査」を組み合わせ、**胃がんになりやすいか否かを判定する胃がんリスク検診**を実施しています。

胃がんリスク検診(ABC 検診)は**定期健康診断**で採血した**血液サンプル**で行うため、検診のために身体へ負担をかけることはありません。

また、一度検査すれば胃の状態は把握できるので生涯で一度受診すれば十分です。

胃がんリスク検診(ABC 検診)による判定後の処置の変更について

胃がんリスク検診はA・B・C・Dの4段階で判定します。

判定が出た後、平成28年度までは下表「判定後の処置 (H28年度まで)」欄の処置を取ることとしておりましたが、この根拠となっているマニュアル*1が改訂されたため「判定後の処置 (H29年度以降)」に示すものに変更致します。

*1) 『胃がんリスク検診 (ABC 検診) マニュアル』
認定 NPO 法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構

ABC 分類	A 群	B 群	C 群	D 群
ピロリ菌(HP)体	—	+	+	—
ペプシノゲン(PG)値	—	—	+	+
胃がんのリスク度	低い ←————→ 高い			
胃の状態	胃粘膜萎縮 なし	軽度の胃粘膜 萎縮あり	胃粘膜の萎縮 が進んでいる	強度の胃粘膜 萎縮あり
判定後の処置 (H28年度まで)	5年毎に胃がん リスク検診	ピロリ菌除菌 + 3年毎に胃部 X線検査	ピロリ菌除菌 + 2年毎に胃部 X線検査	毎年 内視鏡検査
判定後の処置 (H29年度以降)	本人の判断で 検診又は 日常診療	医師へ相談 指示あれば内視鏡検査、ピロリ菌除菌等を実施		

ただし、以下に該当する方は正しく判定できない場合がありますので、A判定であっても医師へご相談下さい。

1. 胃の手術を受けたことがある人
2. ピロリ菌除菌治療を受けた人
3. 胃潰瘍、十二指腸潰瘍の治療中(服薬中)の人
4. 人工透析の治療中の人

このため、当健康保険組合では、**ABC 検診を未受診者に対してのみ「定期健康診断」時の血液検査の一つとして実施**致します。